浄土寺だより

浄土真宗本願寺派
石見真宗根本精舎

ともしび

平成29年11月号　*Vol57*　発行日　１７０４１２
〒６９９－４６２１
島根県邑智郡美郷町粕渕３５４
浄土寺 門信徒会
TEL　0855―75―0064　FAX　0855―75―0264

月々のことば

五月二十一日（日）　降誕会法要
ありがとう　おかげさま
この一言にホッとする

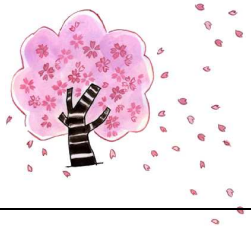
六月十日（日）　四季講
アミダさまに抱かれて
占い迷信用事なし

七月十六日（日）　安居会法座
縁次第でどう振る舞うやら
危うい　あやうい　私

八月十九日（土）　盆法座
争いを悲しむ心で
戦没者を悼みたい

九月二十三日（土）　秋彼岸法座
亡き親から何を学ぶ
一人ひとり　問われている

十月十六日（月）　芋法事
何があろうとも摂め取り
見捨てたまわぬアミダさま



一口メモ「お香の由来」

お香は、古代からインドで用いられた礼法の要具です。これを身体に塗り、あるいは室内に散らすなどして、臭気を除いて人に接するということが礼儀とされていました。釈尊の在世の時から盛んに用いられ、釈尊の滅後も、その尊前に香を供え尊崇の意をあらわすものとなったのです。

香（こう）とは、本来、伽羅、沈香、白檀などの天然香木の香りをさし、そこから線香、焼香、抹香　塗香等の総称として用いられます。

浄土真宗本願寺派での用い方〉

お香には様々な用い方がありますが、塗香　ずこう：抹香を体に塗ること、法要などで僧侶が用いる）、燃香　ねんこう：香炉に線香を供えて燃やすこと）、焼香　しょうこう：香炭に火を入れ、その上に抹香を供えて燃やすこと）などがあり、一般には燃香と焼香を用います。

浄土真宗で燃香に用いる線香は、実は抹香の代用です　抹香を燃やすのが正式）。ですから線香は立てずに、横に寝かせます。香炉が小さい場合は、適当な長さに折って入れて下さい。あまり沢山燃やしてもけむたいだけですので、二本ないし四本程度が適当でしょう。香炉に砂や白い粉、金砂を入れたものを見かけますが、これだと寝かせた線香がすぐに消えてしまいます。上質の香灰を入れれば消えることはありません。

リビング法話　「お慈悲のぬくもり」

住職　西原真公

ずいぶん前のことです。ご門徒のお宅へ法事でお参りした時のことです。その日は、亡くなられたお母さんの十三回忌でした。おつとめや法話が終わり、仕出し屋さんから届けられたお斎（とき）を皆さんと一緒にいただいておりました。すると、そのお料理とは別に、ひと切れの豆腐が出てきました。

お斎の際、このようなかたちで豆腐を出していただいたのは初めてでしたので、私は息子さんに、亡くなられたお母さんは、お豆腐がお好きだったのですか」と尋ねました。

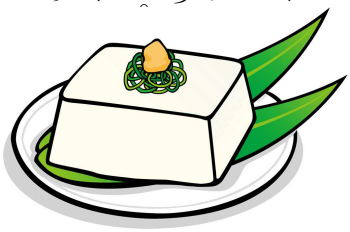
すると息子さんは、「いや、そういうわけではないんですが、豆腐には母に関する特別な思い出があるんです・・・」とおっしゃりながら、次のようなお話をしてくださいました。

息子さんとお母さんは二人暮らしで、息子さんがまだ小さい頃、学校から帰るといつもお母さんからお使いをたのまれていたそうです。そのお使いとは、近所の豆腐屋さんに置いてあった「おから」をもらってくるというものでした。息子さんはほぼ毎日、その豆腐屋さんにおからをもらいに行ったそうです。

そんなある日、いつものようにおからをもらいに行くと、豆腐屋のご主人が「ぼくちゃん、いつもお使いご苦労さま。でもね、お母さんにたまには豆腐も買ってくださいと言っておいてね」と言われたそうです。

そう言われた息子さんは、家に帰るとすぐにそのことをお母さんに伝えました。すると、それを聞いたお母さんは、そのまま静かに泣いていたそうです。

お母さんは、子どもに思うように食べさせてやれないつらさに涙を流されたのでした。息子さんは、お母さんが亡くなって以後、折にふれてこのことを思い出しては、あの時お母さんはどんなにつらい思いをしたのだろうかと涙し、お母さんが日々畑で泥にまみれ、虫に刺されながらも、一生懸命自分を育ててくれたことに、言葉に尽くせないほど感謝しておられるそうです。



「死ぬ」でなく「往く」

そんなお母さんが生前、よく独り言のように言っておられた言葉があったそうです。

親さまは私を抱いて決して捨てることがない。それは親さまなればこそ、親さまなればこそ・・・」

年配の方は阿弥陀さまを「親さま」と呼んでおられます。こちらのお宅のお母さんも、お寺でいつも熱心にお聴聞をしておられたそうです。

そのお母さんが料理をする時も畑を耕す時も、親さまなればこそ・・・親さまなればこそ・・・」とつぶやいてはお念仏しておられた姿を、息子さんはいつも見ておられたといいます。

現在、息子さんはお母さんがそうであったように、お聴聞のご縁を大切にされ、お念仏を味わう生活をしておられます。

親鸞聖人はご和讃に、

十方微塵世界（じっぽうみじんせかい）の念仏の衆生（しゅじょう）をみそなはし
摂取（せっしゅ）して捨てざれば
阿弥陀となづけたてまつる

とお示しくださっています。

こちらのお宅のお母さんは、毎日一生懸命、畑を耕しながら、そして、時に子どもに思うように食べさせてやれないことに涙しながらも、自らを抱きとって決して捨てることなく大悲のまなざしをそそいでくださっている親さまの、そのお慈悲のぬくもりを感じ、お念仏を依りどころとして生きていかれたのでした。

そのお母さんが亡くなられる前に最後におっしゃった言葉が、**「お母ちゃんは死ぬんじゃないんで、往（ゆ）かせてもらうんで　お浄土にまいらせてもらうんだよ」**というものだったそうです。

涙ながらに話をしてくださる息子さんと共に、ご法義の深い味わいの中に生きていかれたお母さんの姿を偲ばせていただきました。

伝灯奉告法要　いよいよ参拝！

十月より第二十五世専如門主伝灯奉告法要が始まり、佐波組でもこの度のご勝縁に遇うべく五月に団体参拝を計画します。佐波組では八十名の定員となり、浄土寺からも十名の方が参加いたします。

とき　平成二十九年五月二十七日(土)～二十九日(月)　二泊三日

内容　二十七日美郷町各地（バス）―粕渕　七時頃）―京都ご本山法要参拝―京都湯の花温泉泊―二十八日姫路城・灘酒蔵見学―小豆島温泉―二十九日オリーブ園―寒霞渓―美郷町

本山で帰敬式（おかみそり）もあります

帰敬式（おかみそり）とは、阿弥陀如来・親鸞聖人の御前で浄土真宗の門徒としての自覚をあらたにし、お念仏申す日暮を送ることを誓う、私たちにとって最も大切な儀式です。受式され、仏弟子となった方にはご門主さまより法名が授与されます。是非ともこの度のご縁に帰敬式を受式し、共にお念仏を喜ぶ人生を歩みましょう。

初参式　五月二十一日（日）参加者募集！

宗祖降誕会法要（親鸞さまのお誕生お祝い法座）に当たり浄土寺本堂に於いて浄土寺聞信仏教婦人会の主催で、恒例の赤ちゃんから二歳までの初参式を行います。

昨年の一月以降にお生まれになった赤ちゃんは是非とも仏縁に会う初参式をお受けになるよう、お勧め致します。当日は赤ちゃんの手形足形の記録採取や記念品を贈ります。

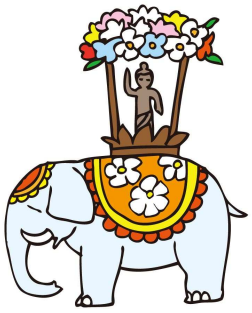
平成二十九年度浄土寺聞信仏教婦人会総会

三月十二日（日）午前十時より浄土寺聞信仏教婦人会の総会が開催されました。真宗宗歌斉唱のもと厳かに開扉となり、十二礼で始まり、予決算、活動方針を決めて、ダーナ献金に続き、大田市三瓶町の金盛徳照先生よりご法話をいただき、尊いご縁にあいました。

当日は恒例の会員手作りのお弁当で懇親会を行い、昨年厳修された継職法要のビデオを鑑賞し、レクリエーションではジャンケン大会で大いに盛り上がりました。

メリシャカＢＢＱ＆花まつり
お釈迦さまのお誕生お祝い）

四月八日がお釈迦様のお誕生日となり、浄土寺子ども会は四月八日（土）に花まつりを開催しました。今年は三瓶放牧牛と美郷産の有機野菜でバーベキューをしました。保護者の方も一緒に参加してくださり、たくさんの子供達がお釈迦さまの御誕生を御祝いしてくれました。甘茶をかけてお祝いした後、大人も子供もバーベキューで楽しいひとときを過ごしました。



四季講

一昨年から大田・美郷・江津の僧侶有志が中心となって年4回の勉強会（仏教講座）を開催しています。浄土寺では十二月十七日（土）に歳末法座と兼ねて開催しました。講師は龍谷大学教授で浄土真宗本願寺派司教である楠淳證（くすのきじゅんしょう）先生をお招きして『唯識に学ぶ』というテーマでお話し下さいました。聞き慣れない仏教用語もあり多少戸惑いましたが、仏教の真髄をわかりやすく話され、意義深い研修となりました。

納骨堂入所募集並びに合同墓希望者募集！

浄土寺では昭和四十二年以来、持仏堂を納骨堂として兼用し、今日まで多くの方にご利用頂いております。現在、76基中19基の空きがあります。まだ余裕がございますのでご検討してみて下さい。

納骨堂は門信徒の方々にご利用頂くことによって、浄土寺の護持とご法義の繁盛に大きく貢献するものであります。今後とも皆様のご協力を賜り、お念仏の絆を深めていただくことを念願し、ご案内申し上げる次第です。

又、今後のことを考えますと、核家族化という家族制度の変化や少子化の進化で、お墓を守る継承者がいない環境にある方々が増えつつあります。このような悩みを解決する手段として、継承者に代わり、お寺でお預かりして永代に維持、管理をしていこうという考え方で、今年は納骨堂と併せての合同墓増設も検討します。ご希望がありますればお気軽にお寺にお尋ねください。

おさそい　案内

平成29年4月20日晩席より21日日中まで

浄土寺総永代経法要

講師　温泉津　願林寺

窪田　英俊　師

二十日
晩七時半　永代経逮夜法要　法話　一席

二十一日
朝十時　永代経晨朝法要　門信徒会総会　法話　一席

十一時半より　おとき随時

二十一日
昼一時　永代経納骨堂法要　納骨堂・本堂　法話　前席

二時半　永代経開闢法要　法話　後席

▽▲▽▲▽　お知らせ　▲▽▲▽▲

浄土寺 facebook のお知らせ

インターネットでフェイスブックを始めました毎月の法座や子ども会の案内をしています。

浄土真宗本願寺派　島根　浄土寺」で検索してみて下さい。

http://www.facebook.com/Johdoji

是非　『いいね!』をクリックして下さい

浄土寺の平成二十九年度の主な行事

一月・元旦修正会（一日午前）年始
御正忌（十六日）十五日晩大逮夜

二月・初法座（十六日）住職

三月・仏婦総会（十二日）金盛徳照師
春彼岸法座（二十一日）住職

四月・新入生お祝い会ＢＢＱ　並びに
花まつり子ども会（八日）
・永代経法要（二十日～二十一日）
講師　温泉津　願林寺　窪田英俊師
・門信徒総会　二十一日　十時

五月・降誕会法座（二十日）・初参式

六月・四季講（十日）　武田晋先生

七月・安居会（十六日）特留宣裕師

八月・盆法座（十八日）住職

九月・秋彼岸（二十三日）未定
前々坊守祥月命日・前住職追悼法要

十月・芋法事（十六日）仏婦例会も兼ねる

十一月・報恩講（二十日晩～二十一日）
講師　尼崎　宏林晃信師

十二月・仏婦報恩講（十六日）歳末法座と兼ねる

大晦日（三十一日）除夜の鐘　つき

十一時半から

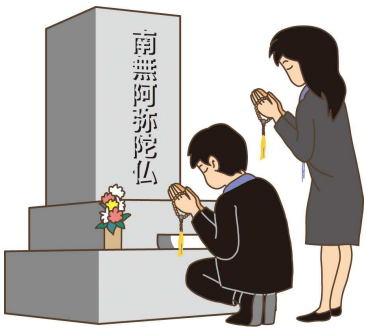
永代経懇志進納された方々

【平成二十九年四月一日現在】
平成二十八年十一月から平成二十九年四月まで）

慈朝院釋崇則（置名朝則）施主　奈良　置名章正　殿
釋信靖（品川靖弘）施主　別府　品川弘之　殿
釋慈幸（和田幸子）施主　池田　和田幸徳　殿
釋明澄（西村すみゑ）施主　川合　西村晴男　殿
釋清智（井上智津子）施主　稲荷町　井上久人　殿
釋観世（小林世根子）施主　藤沢市　小林一三　殿
釋勇哲（奥野哲也）施主　法田　奥野民夫　殿

忝なくお受けし教化の資とさせて戴きます

永代経懇志とは故人が今生でお念仏のお育てを頂き、浄土へ往生した証（あかし）として、形見を遺（のこ）すための上置きの懇志です。

勿論、亡き人の永代に亘る読経の御布施ではありますが、当山では上納懇志のすべては聞法道場である本堂の維持、仏具荘厳に当てられています。故人の倶会一処の「願い」が永代に鳴り響き、子々孫々まで「お念仏のいのち」が繋がれて往（ゆ）く事になるからであります。

浄土寺では還浄された故人の尊名と法名を永代まで法名軸に奉安顕彰し、永代に亘る祠堂読経のご懇念としてお受けさせて戴いています。